「善通寺市手話言語条例（案）」の概要について

1. 条例（案）の背景と目的

言語は、人の意思や思想、感情などを表現し相手に伝え、また相手のそれを受け入れ、理解して社会生活を営む上で必要な意思伝達手段であり、社会生活や文化活動に必要不可欠なものです。

手話は、音声を使わず、手や指の動き、顔の表情、口の動きなど、身体全体の動きによって表現される視覚的言語です。

ろう者は、物事を考え、コミュニケーションを図り、お互いの気持ちを理解し合うために、また知識を蓄え、文化を創造するために必要な言語として手話を大切に育んできました。

こうした中、障害者の権利に関する条約や障害者基本法において手話が言語として認められましたが、それに対する理解や啓発、環境整備は、いまだ十分ではありません。ろう者や手話を必要とする人（以下「ろう者等」という。）がいつでもどこでも容易に情報を得ることができ、コミュニケーションを十分に図ることができる社会となるよう取り組むことが求められています。

本市では、手話が言語であることを明確に位置付け、手話に対する理解の広がりや社会的認知の拡大を図ることに関し、基本理念を定め、市の責務並びに市民及び事業者の役割を明らかにするとともに、手話に関する施策の基本的事項を定めることにより、手話に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、もって全ての人々が共生することのできる社会の実現に寄与しようとするものです。

2. 条例（案）の概要

【基本理念】

「手話が言語である」との認識に基づき、全ての人々が人格と個性を尊重することを基本として、手話への理解の促進及び手話の普及を図っていきます。

【市の責務】

市は、ろう者等に対する合理的配慮を提供するとともに、ろう者等があらゆる場面で手話による円滑な意思疎通を図ることができ、自立した日常生活及び地域における社会参加がしやすい環境を整備するために必要な施策を講じていきます。

【市民の役割】

市民一人ひとりが社会の一員として、手話に関心を寄せ、理解しようとし、ろう者等と交流することで、ろう者等が暮らしやすい地域社会の実現に寄与するよう努めます。

また、ろう者等自身も、ろう者等にとっての手話とは何かについての理解を広めるよう努めます。

【事業者の役割】

サービス利用者としてのろう者等と被雇用者としてのろう者等の双方に対して、ろう者等であることによる情報不足や不当な差別等が起こらないよう配慮します。

【施策の推進】

市は、基本理念にのっとり、以下の施策を推進します。

- (1) 手話に対する理解及び手話の普及を図るための施策
- (2) 手話による情報の発信及び情報を得る機会の拡大のための施策
- (3) 市民が意思疎通の手段として手話を選択することが容易にでき、かつ、手話を使用しやすい環境の構築のための施策
- (4) 手話通訳者等の確保及び養成その他手話による意思疎通支援者のための施策
- (5) 手話を学ぶ機会の確保に関する施策
- (6) 災害時における情報の提供及び取得並びに意思疎通支援者に関する施策
- (7) その他市長が必要と認める施策

なお、善通寺市の障がい者施策を総合的かつ計画的に推進していくための計画である「善通寺市障がい者福祉基本計画」との整合性を図りつつ、関係課と連携しながら推進していくこと、また、市が手話に関する施策の推進に当たっては、必要に応じ、ろう者等、手話通訳者その他の関係者から意見を聴くとともに、必要な財政上の措置も講じていきます。